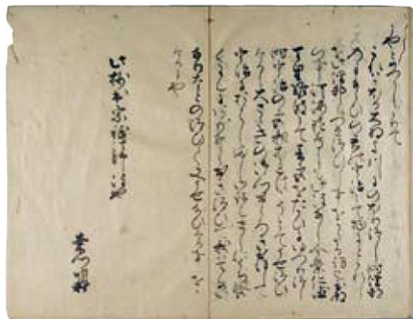


『源氏不審抄出』一冊



『源氏不審抄出』（『源氏物語不審抄出』）は、連歌師宗祇の著した『源氏物語』注釈書。『源氏物語』の中から意味の取りにくい箇所を120項目余り挙げ、それについての詳細な注釈を記したものである。ところどころ、宗祇の師匠である一条兼良の説等を引き、疑義を呈する箇所もある。黒川文庫本以外の現存諸本には、富小路俊通の奥書があり、宗祇が関東に下向する直前に、本書を俊通に託し、間もなく死去したことが知られる。

ノートルダム清心女子大学本の函架番号はH-196。室町写。縦24.5cm×横17.3cm。袋綴。楮紙。全1冊。外題は、表紙左肩の題箋に、「源氏不審抄出」とあり、内題も同様。表紙は原装、楮紙。遊紙は首尾1枚。墨付丁数は69丁。1面10行。墨付1丁の表右上に「藤波家蔵書」、その横に「ノ

トルダム清心女子大学図書館之印」、「藤波家蔵書」の下に順に「黒川真頼」の朱陽丸印、「黒川□□蔵書」の朱陽印、その隣に「黒川真前蔵書」の朱陽印、「黒川真道蔵書」の朱陽印。引用本文の後、注は二字下げになっている。巻名は一字下げて書かれ、巻名の上には朱点がある。連歌師明融によって、「此抄出宗祇法師註也 桑門明融」という奥書が付される。

当該本について注目されるのは、俊通の奥書がないことである。さらに、他本にはない花宴巻の註釈があるほか、独自の注項目や脱落があるなど、本文異同においても他本とは異なる傾向が見受けられる。本書は、宗祇晩年の著作とされてきたが、清心本を精査することで、その成立過程が窺える可能性もあり、興味深い典籍である。